

第3編 学 校 別 研 究

【 目 次 】

沼 田 小 学 校	4 9
沼 田 東 小 学 校	5 3
沼 田 北 小 学 校	5 7
升 形 小 学 校	6 1
利 南 東 小 学 校	6 5
池 田 小 学 校	6 9
薄 根 小 学 校	7 3
川 田 小 学 校	7 7
白 沢 小 学 校	8 1
利 根 小 学 校	8 5
多 那 小 学 校	8 9
沼 田 中 学 校	9 3
沼 田 南 中 学 校	9 7
沼 田 西 中 学 校	1 0 1
沼 田 東 中 学 校	1 0 5
池 田 中 学 校	1 0 9
薄 根 中 学 校	1 1 3
白 沢 中 学 校	1 1 7
利 根 中 学 校	1 2 1
多 那 中 学 校	1 2 5
利 南 幼 稚 園	1 2 9
薄 根 幼 稚 園	1 3 3

利 南 幼 稚 園

所在地 〒378-0014 沼田市栄町141番地
電話番号 0278-23-1071 FAX 23-1186
園長名 下田 高男

I 幼稚園の経営

1 幼稚園の教育目標

人間性豊かで心身共にたくましい子

○明るく元気な子 ○友達と仲良く遊ぶ子 ◎豊かに表現する子(今年度重点目標)

2 経営方針

- (1) 幼児一人一人を多面的に理解し、その特性や状況に応じた『支援』と『見守り』による指導の充実を図る。
- (2) 幼児が様々な環境や友達とかかわりながら自己を発揮し、自他の良さを認め合い主体的に活動し、一人一人が輝く【**確かな学びのある幼稚園**】
- (3) 基本的な生活習慣や集団生活の中で社会性を身に付けさせるために、家庭と連携・協力し【**共に歩み、共に育てる幼稚園**】
- (4) 地域社会、近隣の学校との交流の機会を通して育ちにつながる【**連携を進める幼稚園**】
- (5) 危機管理能力向上と安全指導に努め、幼児が【**安全で安心して生活できる幼稚園**】
- (6) 教師同士が協力し、持ち味を発揮しながら互いに高め合う【**明るく活力ある幼稚園**】

3 本年度の重点施策

【スローガン】 **元気 笑顔 あいさつあふれる 利南幼稚園**

(1) 感じ、考え、伝え、拓く力を育む指導の充実を図る。

- ① “連携タイム” “連携メモ” “チャンス伝達” の実践を深め、全職員で子どもの姿を共有し、多面的な幼児理解と的確な環境構成をすすめる、教員の持ち味を活かした「チーム保育」としての指導力の向上を図る。
- ② 幼児一人一人が幼児期に必要な経験を主体的に積み重ねていけるようにPDCAサイクルをもとに指導計画及び保育実践の改善、充実を図る。【**振り返り**】
- ③ 幼稚園の様々な場面で、幼児が主体的にかかわり、自分なりに試行錯誤し、達成感を味わえるような『支援』と『見守り』のバランスを考えた保育をすすめる。
- ④ 日常の園生活やねらいを明確にした活動の中で、他者とかかわり、他者の気持ちや考えを感じながら自分の思いを伝えることを通して、協同性や思いやりの心、自己肯定感を育む。
- ⑤ 配慮が必要な幼児には、専門機関と連携しながら個別支援計画をもとに適切な支援で育ちを支えるとともに、保護者支援に努める。

(2) 安全、安心、健康な生活が送れる幼稚園づくりをする。【**セイフティ沼田**】

- ① 『ルールブック50』や『親子チェックシート』を活用しながら園と家庭で共通理解、共通実践をすすめることで基本的な生活習慣の確立を図る。
- ② 定期的な安全点検や巡回点検、遊具点検を確実にを行い、その結果を全職員で共有するとともに、改善箇所等早期対応に努める。
- ③ 交通安全教室や避難訓練、交通指導日や安全講話などを計画的に実施することで、幼児、保護者の安全意識を高めるとともに危機回避能力を身に付けさせる。【**沼田市SNSルール**】
- ④ 新型コロナウイルス等感染症対策として『手洗い・うがい・咳エチケット・消毒』を徹底し、日常保育や行事の内容、方法を工夫するなど3密回避による感染防止を図る。
- ⑤ 栽培体験を通じた食育で健康な体作りを推進するとともに、生活管理指導表に基づいたアレルギーへの対応を的確に行う。

(3) 家庭、地域、学校との連携の充実

- ① 各たより、掲示板連絡、写真日報等で幼稚園の様子や幼児の学びの姿を知らせることで、園の方針への理解を深めながら信頼関係を築く。
- ② 読み聞かせの会による読み聞かせ活動やお膝絵本活動等家庭と連携を図り読み聞かせ活動を推進する。【**家族で本を読みましょ**】
- ③ 『つながり』を意識した幼・小の交流を通して就学後の生活や学びを支え土台となる心情や態度を育む。【**幼小中連携**】
- ④ 地域の人や自然、文化に触れる機会や行事を実施し、豊かな心と郷土愛を育む。【**沼田大好き**】

II 園内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～
進んで絵本に親しみ、豊かな感性と表現力をもった幼児の育成

～読み聞かせ活動の工夫を通して～

幼児期は人間形成に必要な基盤が培われていく大切な時期である。しかし、人と心を通わせたり、心を動かすような実体験が少なくなり、心の豊かさが失われてきている。このような時代に生命を尊重する心、他者への思いやりの心、感動する心など豊かに感じる心、そして感じた気持ちを素直に表現する力を育てることは、一人の人間としてよりよく生きていくために必要不可欠である。幼児期から絵本に親しむことで、現実と空想の世界を行き来し、実生活ではできない経験をしたり、主人公の感情に触れ、喜びや悲しみを共にするなど心を動かすことで想像力、創造性、やさしさや思いやりなどの豊かな感性が育ち、そのことが自分の思いを表現せずにはいられない、いわゆる表現意欲をかきたててくれると考える。以上のことから、幼児期に多くの絵本に出会わせることは重要なことである。

幼児の実態と関わり

- ・入園して間もなく新たな環境に緊張や不安を感じている幼児も絵本を読んでいるうちに徐々に気持ちも安定し遊びだす姿もある。
- ・絵本への興味・関心は高く、絵本の部屋へ行ったり、保育室に絵本を持ってきて見る幼児が多い。
- ・教師がクラスで読むと、静かに聞いたり、絵やお話について思ったこと、話の先の予想などを発言しながら楽しんでいる。
- ・言語表現の実態としては、してほしいことも「紙・・・」「これ・・・」など単語や代名詞を使うことが多く見られる。表現力の乏しさから、手を出したりすぐに泣く等の直接的な行動に出る幼児もいる。
- ・昨年度の学校評価において、読み聞かせの評価が他の項目に比べ低く、保護者の読み聞かせへの意識が低い。

指導の在り方との関わり

- ・絵本の内容を吟味し発達に即した読み聞かせをしていただろうか。降園時、一斉活動の前など決まった場、時間に読む物となり、マンネリ化になっていなかったか。
- ・幼児の内面を大切にしたい読みの工夫が足りなかった。もっと幼児の身近になる絵本環境を工夫し、構成・再構成していきたい。
- ・読み聞かせ後に、幼児の思いはあえて聞かずに、それぞれの幼児の心や頭の中で思いやイメージを膨らませられる援助を工夫したい。
- ・保護者に幼児が絵本を楽しんでいる様子やおすすめの絵本を降園時やクラス便りなどを活用して伝えていきたい。
- ・季節にあったもの、幼児が興味を持っていること、教師が面白いと思ったものなど絵本リストを作成して色々な絵本を幼児や保護者に紹介したい。

2 研修内容・方法

進んで絵本に親しみ、豊かな感性と表現力を高める幼児を育てるために、絵本の読み聞かせに視点をあてて、絵本の環境の見直し、教師の援助の有効性を保育実践を通して明らかにしていく。

(1) 具体化した目指す幼児像



- ・本園の教育目標「人間性豊かで心身共にたくましい子」のうち、「豊かに表現する子」に重点を置く。3歳児：絵本に親しむ幼児。4歳児：絵本に親しみ、色々なことを感じたり考えたりする幼児。5歳児：進んで絵本に親しみ、感じたことや考えたことを伝え合える幼児の姿を目指す。

(2) 具体化した目指す幼児像を達成するための共通実践する手立て

- ・読み聞かせに関する指導計画の見直し・改善を図る。
- ・絵本とのかかわりを多く持たせ、幼児の感動体験の蓄積を大事にする。
- ・幼児一人一人の感動や内面の動きに添った援助の在り方を探る。
- ・幼児の思いやイメージを表出できるような援助の在り方を工夫する。
- ・家庭と連携し、絵本の読み聞かせの充実を図っていく。

Ⅲ 研修計画・経過報告

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・研修主題の検討 ・研修内容検討 ・園内研修計画確認 	<p>○前年度の反省及び今年度の研修内容と進め方について</p> <p>○幼児の実態の把握と課題検討、テーマの決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本への興味 関心は高く、教師がクラスで読むと、静かに聞いていたり絵やお話について思ったこと、話の先の予想などを発言しながら楽しんでいる。 <p>○研修主題・内容・方向性についての基本的な考え方と共通理解</p> <p>○研究構想及び目指す幼児像図式化</p>
5. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・構想図作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に「絵本の部屋の環境の改善」「読み聞かせを通じた実践」「家庭への啓発」の3本柱で研修を進めていく。 <p>目指す幼児の姿として年少「絵本に親しむ幼児」年中「絵本に親しみ色々なことを感じたり考えたりする幼児」年長「すすんで絵本に感じたことや考えたことを伝え合える幼児」とした。</p> <p>○年間指導計画における絵本の読み聞かせ、表現に関する各学年の内容について共通理解、具体的手立ての検討</p>
6. 3	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画検討 (2期) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は期ごとに各学年で読み聞かせした絵本を追記している。
7. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画検討 (3期) ・保育実践研究 	<p>○事例における教師の援助について考察・分析 (1学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【年少児】絵本「ありとすいか」より 絵本でありの世界に触れた A 児が翌日に、ありの好物を考え、葉っぱのお皿にチョコや砂糖に見立てた砂や土を置き、ありがくるのを待つという、ありへの優しい姿が見られた事例。
8. 24	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例検討  	<ul style="list-style-type: none"> ・【年中児】絵本「にじいろのさかな」「したきりすずめ」より お話の世界で感じたことを、描画や製作を通して表現した事例。絵本の世界を実際に絵画や製作で表現したことで、絵本の世界と同じ世界を体験でき、よりお話が子供の心の中に入った事例。 ・【年長児】絵本「くれよんのくろくん」より 絵本発表会の場で A 児の、絵本にでてくるひっかき絵をみんなで作りたいという発言をきっかけに、製作が始まる。絵本の世界と重ね合わせ、感動し色々な言葉を友達と伝え合いながら

10.14	・指導計画検討（4期）	<p>活動する様子が見られた事例。</p> <p>○事例における教師の援助について考察・分析（2学期）</p> <p>・【年少児】絵本「どうぞのいす」より 絵本と同じ世界を保育室に作ることで、子供たちが登場する動物になりきって遊んだり、友達に「どうぞ」といって、作ったばんやはちみつをあげたりする優しい姿が見られた事例。</p> <p>・【年中児】絵本「ともだちほしいな おおかみくん」より お話のイメージがわくように何度も読み聞かせてから、表現遊び→発表会へとつなげ、一人一人が登場する動物になりきって思い思いの表現を楽しみ自信をもって演じることができた事例。</p> <p>・【年長児】B児の「お話作り」に視点をあてて B児が作った絵本を、テラスに置いたり、絵本発表会をすることで他の幼児も興味をもち、自分でイメージを膨らませお話を作り、教師や友達に嬉しそうに読み聞かせしてくれた事例。</p>
11.10	・指導主事訪問	
12.21	・保育実践研究 ・実践事例検討	
1.21	・指導計画検討（5期）	
	 	
2	・研修のまとめ	○成果と課題、幼児の変容について
3	・来年度の方向性の検討	○反省と次年度の研修の方向性、課題検討

IV これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・絵本発表会を通して絵本への関心が広がり、感想を友達に伝える楽しさを感じ、友達の話聞く姿勢を育むことができている。また、子供の興味や生活、季節に合わせて絵本を選んで読んだため、より身近に感じたり、子供が読んだ後も自ら絵本を手にする姿が見られた。
- ・保護者に向けた読み聞かせや親子読み聞かせの日を設けたことは家庭への意識を高めるのに効果的であったと感じた。

○課題

- ・読み聞かせ後、感想や予想を言葉で表現する幼児とそうでない幼児とで思いやイメージの表出に個人差が見られる。
- ・まだ家庭によって読み聞かせへの意識に差があると感じられる。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・思いの表出が弱い幼児の表情やしぐさを教師が見取り、理解・共感し幼児の内面に寄り添える援助を探求していく。
- ・保護者向けに、読み聞かせの専門の講師に話してもらったりしながら、保護者の意識を高めていきたい。引き続き保護者、親子読み聞かせを実施していきたい。

〈 職 員 一 覧 〉

職 名	氏 名
園 長	下田 高男
教 諭	戸部 葵
教 諭	宮下 理恵
教 諭	松井 逸希
教 諭	大坪 留美子
教 諭	板井 美芳（育児休業中）
用 務 員	大竹 秀男

薄根幼稚園

所在地 〒378-0064 沼田市善桂寺町78番地
電話番号 0278-23-0651 FAX番号 0278-23-0588
園長名 佐藤 広幸

I 幼稚園の経営

1 幼稚園の教育目標

人間性豊かで心身ともにたくましい幼児

○明るく元気な子（重点目標）○仲良く遊べる子 ○進んで取り組む子 ○豊かに表現する子

2 経営方針

- (1) 友達と触れ合い共に活動する楽しさを味わい、健康な心と体づくりに努める。
- (2) 自然や社会事象にかかわる体験を通して、豊かな心情や感性を育む。
- (3) 教師がモデルとしての自覚をもち、一人一人が力を発揮し協力し合い高め合えるようにする。
- (4) 家庭と連携協力し基本的な生活習慣の育成をはかるとともに、子育て支援に努める。
- (5) 地域社会や小中学校との連携を図り、育ちの連続性を重点とした連携を進める。
- (6) 危機管理と安全指導に努め、安全で安心して過ごせる幼稚園

3 本年度の重点施策

(1) 保育の充実

- ① 幼児の興味や関心に即して主体的な活動を促し、自己発揮しながら必要な体験を積み重ね、充実した遊びができる環境作りをする。
- ② 異年齢交流での多様なかわりを通し、互いに育ち合いかわる力が高める援助の工夫をする。
- ③ 保育の反省・評価、個人記録の蓄積を通し必要な体験が得られる環境構成・援助の工夫をする。
- ④ 職員間の連携や保育カンファレンス、研修により多面的な幼児理解を通し指導力の向上につなげる。
- ⑤ 実践研修を積み重ね、分析、考察を通して保育の充実と指導力の向上を図る。

(2) 生活習慣の育成

- ① 「早寝・早起き・朝ごはん」を推進し、健康な体づくりの基となる望ましい基本的な生活習慣を確立するとともに、社会に適応するために必要な社会的な生活習慣を身につけさせる。
- ② 健康な心と体を育てるために食べ物への興味・関心を高める食育活動や栽培活動を取り入れる。
- ③ 体力向上のために、運動の要素を取り入れた遊びを工夫し、楽しく体を動かす活動ができるようにする。

(3) 安全の確保

- ① 園内外の環境整備による安全確保に努め、幼児が安全に過ごせる環境に留意する。
- ② 新しい災害マップを活用して、危機管理マニュアルの見直しを図る。
- ③ 交通安全指導や災害時の避難訓練を通して、安全への意識を高め危機回避の能力を身につけさせる。

(4) 家庭・関係機関との連携

- ① 配慮が必要な幼児に対して、関係機関と連携しながら幼児にとってより良い支援が図れるようにする。
- ② 保護者に幼児の育ちや学びを具体的に伝え、成長を喜び合える信頼関係作りをする。
- ③ 新型コロナウイルス感染症に配慮した行事の持ち方について、保護者の理解が得られるようにする。
- ④ 絵本が情操教育に大切なことを知らせ、親子読書の意識を高める。
- ⑤ 地域の人との触れ合いや自然事象とのかかわりなどから、豊かな感性や郷土愛を育んでいく。
- ⑥ 小中学校と、互惠性のある交流や、育ちから学びへの連続性を踏まえた連携を図る。
- ⑦ 幼小中PTA連携スローガン「子どもは地域の宝物、ほめて叱って励まして、みんなで育てる薄根っ子」を基に、地域の教育力を活用する。

II 園内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

遊びを通した健やかな体の育成
～生活リズム、食、運動遊びの工夫に視点を当てて～

幼児の実態との関わり

- ・運動遊びを好んでしているが、鬼ごっこや縄跳びなど持久力を要する遊びが苦手であり、単発的な動きが多い。
- ・昨年、毎朝の朝運動を通して運動習慣が身に付き、運動する楽しさを味わうことができた。沢山、運動を楽しむ機会を作っても少食であったり、便秘気味であったりする幼児が多い。
- ・昼寝を長時間している幼児が多く、必然的に就寝時間が遅い幼児が多い。
- ・野菜が苦手な幼児が多く、食べず嫌い目新しいメニューに抵抗を感じる幼児が多い。

指導の在り方との関わり

- ・朝運動を継続して取り組んできたことで、楽しく運動する習慣や園での規則正しい朝の習慣が身に付いてきたが、家庭でも生活リズムが身に付くよう家庭と連携ができていたかどうか。生活習慣や食習慣のことなど園と家庭とで改善していく。
- ・家庭での幼児の実態を把握し、園での取組を分かり易く家庭に発信していくとともに、協力して心身ともに健康な幼児を育てる。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す幼児像

- ・望ましい生活習慣が定着し、自ら健康で安全な生活を作り出す、心身ともに健康な幼児。
- ・進んで体を動かし、毎日運動することが楽しいと思える幼児。
- ・様々な食べ物への興味、関心をもち、進んで楽しく食べる喜びを味わえる幼児。

(2) 具体化した目指す幼児像を達成するための共通実践する手立て

- ・生活リズムや食生活に関するアンケートを実施し、一人一人の幼児の生活リズムの実態を把握し改善方法を探り、実践を積み重ねていく。
- ・運動の特性を踏まえた、楽しさや喜びを味わえる運動環境づくりを工夫し、その環境の中で多様な動きや持久力を身に付けていけるようにする。
- ・各学年の実態に応じた食物の栽培活動の体験を通して、色々な食材に興味をもち食べる楽しさを味わえるようにする。
- ・お楽しみランチの日を月4回実施し、みんなと同じ物を食べる嬉しさや色々な調理方法のメニューを食べる経験を増やしていく。

3 研修計画・経過報告

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・毎朝時間を決めて、全園児で朝体操に取り組んできたことで、朝の習慣が身に付き、一日を活動的に過ごすことができた。一日を活動的に過ごすことで、昼食時には空腹感を感じるができ、楽しい食事にもつながった。
- ・園での食育の取組を、機会を逃さず家庭に発信したり、簡単な味付けや調理を提案してきいたりしたことで、家庭での食育への意識を高めることができた。
- ・学年の実態に合わせた栽培活動を計画し、幼児が調理に参加し食べる楽しさを繰り返し経験してきたことで、食材や味付け、食感に関心が向き、苦手な野菜でも進んで食べてみようという気持ちをもてるようになった。



○課題

- ・起床、就寝時間について、家庭の状況により個々に差が見られた。時間の改善が難しくても、早寝早起きや睡眠の大切さなどを今後も繰り返し伝えていき、自分の健康な体のことを考えながら生活できる土台を作り、小学校での生活へとつながるようにしていきたい。
- ・異年齢での遊びの際、少人数の園なので他学年の幼児の発達や課題など分かっているつもりでも担任の意図していることとずれが生じている時があった。クラスの課題やねらいなどを共有したことで、どの教師も一人一人の幼児に対して同じ援助ができたので、早い段階から教師間で共有していきたい。
- ・色々な運動遊びをする中で苦手意識があり消極的な幼児や初めての遊びに慎重になる幼児には、教師の適切な援助や励ましとともに友達と一緒に挑戦するきっかけを作ったり、より魅力的な環境を作ったりすることが大切であることを感じた。

○今後の取組み

- ・園の実態に即した食育講演会や日々の調理活動を発信してきたことにより、保護者の食育に対する意識が更に高まっているので、継続して幼児の食育の大切さや楽しさを色々な手段で伝えていく。
- ・生活リズムに関しては、充実した昼間の活動がよりよい家庭での生活リズムにも結びつくことを感じるので、活動的でメリハリのある園生活を過ごせるよう、計画的な保育を心がけていく。
- ・異年齢同士、色々な面で育ち合えるように、今後も異年齢で遊びを楽しむ時間を計画的に作っていくとともに、教師間で、学年のねらいや個々のねらいを共有することを意識していく。

3 研修計画・経過報告

月	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4. 1 0	研修主題、内容の検討 	○幼児の実態、課題から、研修の方向性、内容について ・ 昨年の成果として、運動習慣や生活リズムが整ってきた。引き続き健康な幼児を目標に、食生活の改善にもつなげていく。 ○生活習慣アンケートの実施結果 (前期) ・ 夕食の時間や就寝時間が遅い傾向にあった。 ・ 野菜嫌いな幼児がほとんどであった。 ・ 排便の習慣が朝ではなく、夕方～夜の幼児が多く、便秘気味の幼児もいた。 ○本園の目指す幼児像 ・ 早寝、早起き、朝ご飯、朝うんちを意識して生活リズムを整え、元気に生活できる幼児。 ・ 進んで体を動かすことを楽しみ、心身ともに健康な幼児。 ・ 色々な食材に関心をもち、友達と一緒に食べる楽しさを味わえる幼児。
5	研修計画検討	○栽培活動について ・ 各学年で食生活の実態に合わせた栽培活動を計画、実施する。 ・ 苦手な野菜を自分達で育て、収穫し、調理して味わうことで食べる喜びを感じることができる。
6	保育実践研修	○各学年の栽培活動への取り組みについて ・ 学年の実態に応じた野菜を栽培することが、幼児の苦手な野菜克服につながる。 ○朝運動の取り組みについて ・ 昨年に引き続き朝運動を継続することで、健康な生活リズムが身に付いていく。繰り返し運動する楽しさを味わうことで、運動会へもスムーズにつながっていく。 ○生活リズム改善について各学年の取り組みについて ・ 生活習慣アンケート結果をもとに幼児一人一人の改善の手立てを考え、家庭と連携していく。
7	保育実践研修 	○実践事例『わくわく野菜栽培』(年少児) の検討 (抜粋) 4月に行ったアンケートの結果から、野菜が苦手な幼児が多く、家庭では口にしようとしにくい幼児が多かった。野菜の色々な味に慣れ、味を楽しめるようになるために、栽培活動を通して、色々な食べ物に触れ、食べる喜びを感じることができるようにした。 ・ 育てやすく、沢山実のなるミニトマトなので、収穫の経験が沢山でき採ってすぐに食べることを繰り返し経験できた。 ・ 毎日、栽培物に関わる時間を作り、草むしりや水やりを観察しながら一緒に行っていくことが収穫の喜びにつながっていた。 ・ 食物の栽培、収穫を通して食への関心や自分で食べてみようという意欲を高めることができた。 ・ 酸味のあるトマトが苦手であった幼児がトマトの味に徐々に慣れ、進んで食べるできるようになった。
8	実践事例研究 保育カンファレンス 	○実践事例『地元の果物を味わおう』の検討 (抜粋) ブルーベリーとりんご狩りをし、果物のなり方を見たり、自分でもいだりする体験を通じ、地域で実る果物に興味をもてるようにした。 ・ 地域の果物を収穫体験できたことで、食に対する興味が高まり、知識が広がった。 ・ 地域の方と触れ合いながら、地元で育つ果物を収穫し味わえたことが郷土愛につながった。 ・ りんご狩りでは、園の近くのりんご園の開園式に参加し、りんご狩りの体験ができたことで、地元の名産を知ったり、もぎたてのりんごの美味しさを感じ喜んで食べたりすることができた。

9	保育実践研修	<p>○運動会につながる運動遊びについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が今一番関心をもっているオリンピックごっこを始め、競技につながるような内容を普段の運動遊びに取り入れてきた。 ・運動会（障害物）のプログラムの内容を具体的に考えていく中で、幼児が楽しみながら経験できる内容を明らかにした。
10	<p>実践事例研究 保育カンファレンス</p> <p>うすねオリンピック表彰式</p>  <p>バスケットボール</p>  <p>講師の先生による調理実習</p> 	<p>○実践事例『うすねオリンピック』の検討（抜粋）</p> <p>友達と協力したり、励まし合いながら運動会を楽しみ、皆で一緒に体を動かすことの楽しさを味わえるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日行っている朝運動の中に競技の運動要素を取り入れ、楽しめるようにしたことで、運動会に楽しくスムーズにつながった。 ・学年の発達段階に応じて難易度を変えることで、目当てをもって取り組み、一人一人が達成感を感じることができた。 ・幼児が関心のあるオリンピックを競技に取り入れたことで、意欲も高まり、色々な運動に関心をもち取り組むことができた。 <p>○実践事例『やってみよう！食育』（食育講演会）の検討</p> <p>家庭にも食育に関心をもってもらい、家庭で料理のレパートリーが増えたり、幼児の食経験が広がったりするよう、実践的な食育講演会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の実態に応じた食の講演会を計画できたことで、保護者の食育への意識が高まった。 ・家庭ですぐに実践できるよう、幼児の苦手な野菜を使った簡単料理を目の前で調理してもらったことで、家庭で実践してくれた保護者の方が多かった。 ・講師の先生が目前で幼児が苦手な野菜を使い、調理してくれたことで、家庭のメニューやお弁当のおかずにし、幼児が喜んで食べられるようになった。
11	指導主事訪問	○研修内容についての指導・助言を受け、今後の研修に生かす。
12	<p>実践事例研究 保育カンファレンス</p>  	<p>○実践事例『ドッジボールへの取り組み』の検討（抜粋）</p> <p>少人数園であるため、大人数での集団遊びの経験ができない。教師間で連携し、異年齢でドッジボールを行い、ルールを教えあったり、他学年に刺激をもらったりしながら楽しむ中で、ルールのある運動ゲームの楽しさを味わった。ともに運動能力が向上するよう、各学年、運動発達のねらいをもって取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢で遊ぶことで、年長は手本となり自信になったり、年下の子への思いやりが育ったりし、年下の子は年長児に憧れの気持ちをもち挑戦したり、ゲームの迫力を楽しんだりすることができ、育ち合いや運動能力の向上につながった。 <p>○生活アンケートの実施結果（後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期のアンケート結果で野菜が苦手な幼児が多かったが、進んで食べられるようになった幼児が増えた。 ・食育への関心が高まった家庭が増えた。
1.14	研修のまとめ	○成果、課題、今後の取り組みについて

<職員一覧>

職名	氏名	職名	氏名
園長	佐藤 広幸	教諭	北野 法子
教諭	磯貝 理恵	用務員	斎藤 澄夫
教諭	宇敷 里奈		